

## 議 事 録

1. 会議の名称	池田市文化財保護審議会								
2. 開催日時	平成27年9月25日(金) 午後2時00分～午後3時15分								
3. 開催場所	京都国立博物館内 文化財保存修理所 株式会社松鶴堂修理工房(京都市東山区茶屋町527)								
4. 出席者	<table> <tr> <td>〈委員〉</td> <td>〈事務局職員〉</td> </tr> <tr> <td>室田卓雄会長</td> <td>村田教育長</td> </tr> <tr> <td>仙海義之委員</td> <td>阪本教育部部長</td> </tr> <tr> <td>吉田高子委員</td> <td>田上生涯学習推進課課長</td> </tr> </table>	〈委員〉	〈事務局職員〉	室田卓雄会長	村田教育長	仙海義之委員	阪本教育部部長	吉田高子委員	田上生涯学習推進課課長
〈委員〉	〈事務局職員〉								
室田卓雄会長	村田教育長								
仙海義之委員	阪本教育部部長								
吉田高子委員	田上生涯学習推進課課長								
5. 欠席者	印藤和寛副会長 清基英昭委員 橘高和明委員 吉原忠雄委員								
6. 議題	国指定重要文化財 逸翁美術館蔵「奥の細道図」保存修理の視察								
7. 議事経過	別紙のとおり								
8. 開・非公開の別 ※非公開の理由	非公開 ※関係者以外立ち入り禁止の修理工房での視察のため								
9. 傍聴者数									

## 議事経過

### ○奥の細道図保存修理の視察

株式会社松鶴堂の代表取締役社長および修理担当者より、保存修理の方法、経過について説明を受け、実物を観察する。

修理前の状況について、本紙（ほんし＝直接絵や文字が描かれる紙）は竹紙（ちくし）が用いられ、泥間似合紙（どろまにあいし）を用いて裏貼りを行っている。泥間似合紙は文字通り泥状の粉が浮き上がり、本紙ときれいに密着せず、部分的に浮きが生じている。また、全体に「折れ」が生じており剥離する危険性がある。軸装にする際に裏に張られた絹や軸表装も劣化が進んでおり、新しいものに取り替える。絹は現在主に生産されているものは、明治以降に大量生産のため織物機に耐えられるよう改良されて断面が丸くなっており、やや重量感がある。江戸時代ものは断面が平たく、柔らかい質感を保っている。そのため、江戸時代の養蚕を受け継いでいる養蚕家を探してそこから取り寄せることにした。

裏紙である泥間似合紙は裏から丁寧にはがし（相当労力と時間を要する）、楮紙を新たに裏紙に用いる。接着に用いる布糊は10年寝かしたものを薄めて使用。

一部、修理完了したのを見ると、表面が滑らかに仕上がっている。

文化財の修理は「修復」つまり、失われたところを復原するのではなく、これ以上の劣化を防ぐことを第一とする。よって、修理完成したのを見ると、どこを修理したのか分かりにくく、理解しない人もいる。

逸翁美術館としては、修理完成後、しばらく収蔵したあと、修理完成披露の展示を行う予定。

なお、修理工房では、重文の春日権現絵巻や聖徳太子絵伝などの保存修理が行われ拝見させていただいた。